

…★私の記録より★… (1)



御茶の水女子大學幼稚園

堀 合 文 子

この一年、私は満三歳幼児と生活を共にしました。幼児数は男児八名、女児七名、計十五名で、三年保育幼児は十五名ずつ二組編成で、その一組の担任というわけです。勿論私の経験としてもはじめての事で、こゝ一年を迎え、種々の好いも悪いも経験し、今、私の保育を省み、今後の参考とすべく記録しておきます。

○心の準備迎える準備

昨年三月、三年保育の担任と知つてより私には、希望と不安が一時に到来、久しぶりに、就任当時のあの何とも言えぬ、うれしい様な、たのしみの様な、腕のなる様な、そしていて何となく、不安な、その気持ちにおそわれました。三歳児というものが、私にはしつかりつかめなかつた事が大なる原因で、どの程度なのかしら、お手洗もゆけず、遊ぶ事も進んで出来ず、まだお母様のお乳を離し切れぬ様な、走つたりしてもおもうようにゆけず、よちよちしているのではないかしら、おべんとうは一人で食べられるかしら、こちらの言う事もなかなか理解出来

ぬのではないかしら、と、私の想像の三歳児はこんな淡いものでした。楽しみと希望はあるのですが何か不安で、無経験がすつかり自信を失わせてしまいました。空間の想像をしてもはじまらないので先ず、三歳児の心身発達程度をしらべる爲、種々の方の心理学書を読んでそして後計画なりを立てる事にしました。

計画が果して三歳児に適當か、あまり赤ちやん扱いにしてもいけないし、又あまり重荷になつても尙困るとの心理がおこつて来ましたが結局、心の準備、迎える準備とが必要であり、一応の計画を立て、細い事は、接して後適當に変更する事にして左の様な方針を立て、準備にうつりました。

○環境の考慮

環境により幼児は大なる影響をうけるものである事は言うまでもなく、三歳の幼児が幼稚園という意識に固くならず、家庭の延長としてたのしく、自分達の生活が充分出来る様に環境を整えておかねばならない。こういう事は新入園児に限

らず、又三歳児に限らず考慮する事でありますが、特に此処で取上げる価値があると思ひました。

○私の反省

先生も幼児にとつては一つの環境であります。家庭から、特に母親からといつてもよい、飛びこんでくる幼児達を抱擁出来るだけのやさしさ、愛情、情熱をそなえているかしら、三歳児の母親となり、お友達となり、又よき指導者となれるかしらと一応自分を反省してみました。最近何かなれた感じの私にこのような反省をうながしてくれた事も新しい心の準備として是非必要な事でした。

△室内の準備。室内は出来るだけ家庭的に、あたたかみを備え、それこそあのかたく楽しい関舎を忘れて、第二の家庭として、家庭同様ののしく遊べるように、遊具(ままごと・積木(大小)・毬・絵本等)を配置し、又部屋を楽しく、やわらかくするために、黒板には季節季節の絵をかき張りつけておく、道具・材料等入れる箱又は部屋において幼児達の目に

つくものはすべて、木包の固いものでなく千代紙を張るとかしてそこにもやわらかみを持たせるように、花瓶には常に美しい花等をつとめて装飾・配置・感触に注意するよう考える事にしました。これによつて、家庭的なしたしみと共に観察・習慣をしらぬうちに指導しようとの心ねなのです。

○記名の準備

引出し・下駄箱・帽子掛・お弁当棚等すべて記名しなければなりません、先づ字のよめない事が問題で、そこで考えたのは一人の幼児が何処へいつても同じ印がついていたらそれは自分のだとわかり、自分で何事も出来ると思ひ、又自分の名前も次第に覚える様にさせる爲、その形を自分の名前の上にはる事にしました。○○子さんは★、○○子さんは△という様にきめて、色紙を適当に切り名前の上に、どの場所へもはりつけました。

○お母様方との約束

幼稚園が家庭と連絡をとらねばならぬ

事は、これ又言うまでもない事ですが、特にまだ、幼稚園でも家庭でもある程度の保護と援助をまたぬと生活出来ぬ三歳の彼等には、お母様方と相談しつつ、見守つてゆかねばならぬと思ひます。次の約束は実に平凡な、誰でも知つているあたりまえの事なのですが、あたりまえの事が、大切でもあり、幼稚園で実行しても家庭に徹底しないとなかなか実行出来ないのよく約束しました。

△自分の事は出来る所まで自分でやる。とかく、幼稚園でも、年少だからと、手があれば手を出す事が多いと思われ、自分の出来る事、この年齢に過重でない事はすべて自分で、又自分達でする様に習慣つける事にしました。それには先づ、幼稚園へ来たなら何事も自分でするという觀念を持たせる爲、最初の登園から、お母様とはお部屋の入口で別れ、それから後は各自が生活する様、お帰りの時まで顔を出さず、こちらにまかせていただく事を約束致しました。切角たのしく遊んでいる時でもお母様がのぞいたりすると、忽ちだめになつてしまつたりす

る事が、よくあります。その点お母様と協力理解して、計画をすすめていきたいものです。

△家庭との連絡。幼稚園ではどんな生活をしているのか、家庭ではどの様な生活をしているかお互によく知っていてこそ幼児に正しい目、指導を持つ事が出来るのですから、一学期毎に、その学期の方針、カリキュラムを知らせ、家庭でも実行すべき所は幼稚園と同じ方針で進めるよう、又家庭での状態、家庭からの希望を聞き保育の参考にする事を話し、これに協力してもらおう事を約束しました。

早速、今学期の方針をしらせ、今までの家庭生活を知る爲、次の事項の間に答えてもらいました。

- 伝染病にかかつた事があるか、あつたらその病名
- お画かきをする事あるか、その程度
- 言葉で口がまわらぬのがあるか
- うたを知っているか、その例
- 近所にお友達あるか、その年齢
- 家の周囲の様子
- 家での呼名があるか

○虫や動物すきか、特に嫌いなものは

○自分で出来る事はどんな事か

○なにか癖があるか

○家庭よりの希望
これにより今までの家庭生活をほぼ推量して、方針の参考に致したわけです。

この様に三歳児には、他の年齢以上の家庭との連絡と協力が大切だと考え、お母様方に当り前だが大事な約束をして、愈々三歳幼児との生活が始まりました。

○保育計画

細かいプランはカリキュラムとして立案しましたが、こゝ一年間の大なる方針をここに決めてみました。

○お仕事をするとか、お仕事の期待効果等は次の事にして、先づお友達とよく遊べる様に、そして自分達の生活が楽しいものであるようにして、身体発育方面に力めた健康保育にする様にする。

○製作、計画保育は、期待は勿論せず、生活の中、遊びの中に出現した時のみこれを取上げ展開する様につとめる。

○音楽、リズムは型にはめず、体とリ

ズムの調和が把握出来る事につとめ、創作の道へはじめよりむけるようにする。

○よき習慣は、日常健康の爲のは、すべて履修するように仕事等しなくともこれだけは小さくも必ずするよう注意する。

○記録をとる。健康記録、毎月の体重、身長の測定、お画かきの発展、個人記録、その他。

方針はこのように大きな事を計画しましたが、よき友、よき指導者となり、生活をより楽しく、よるこんで幼稚園へ来、第二の家庭となつてくれる事のみ望んで生活をはじめました。時には一日仕事らしい事はしなくともよい友達同志よく遊んでいればそれで充分なのであります。一年間健康によく遊び社会生活がよく出来ればそれでよいのです。計画はむしろ幼児の生活の中に時々もたらす水滴のように、それによる効果よりも生活をそれによつて少しでも豊かに楽しさを増させる刺戟というわけです。

今回はカリキュラムをおつて一年の足あとを辿つてみましょう。(つづく)